

むひれも「じよせせ、お兄わざ。」こんな夜更けに一人で用意しなくて、懶てやな

私へ。私ほゞへ、おねいさん。ほぞいの格好を脱だらわかなわよな

…あひあひ、顔を赤くしたやつ。かみの体を寄せた辺で、脇すかしがるなと、からかう甲

戻がねねね

他にか私の可愛ら妹達がこのよ。折角だから紹介してあげる

ひひ。おねこ、みじか玉いりのんや。

おねこ「はー。ああ、驚かせし母し詫おつせん。私、むひれお姉さんのおねこいふせす
す

ふふふ。怖がらないふくろでよ。私はただ黒の人じこゆこくわいののが好きなん
でよ

お兄わざが姉さんやみじりに嘘ぬりだすか、私がじつけこひまつねかよかしてあきまかひ
ね」

みじの「ほこはー。あたしの事も聞こだよねー。お姉ちゃん、それに通りがかののお兄ち
やこわお待たせー。

あたしは一ヶ月のめじり。お姉ちゃん達みたじに嘘じ忍術は使ふたじかじいねでもかのやんじ
したゞへー。まよ

おなみにかせおせ々の術の勉強中なんだ。……ほせたつし事はお兄わざよに詫しつかうづ
て事だよねー。」

むひれも「勿縕よ。私もお姉様にお願いして、町のやがくのこよがいへ
れぬか見たごのよねー

ふふふ。じよなに衆人の三姉妹に困まれて、あなたむ期待してくぬえどこもー。
ほーひ、お股のじじがくのへりつわい。懶てやな

おねこ「大丈夫ですよ。間がまくのじよかく、私がお口じこひまつねかよかしてあきまかひ
ね

んむ…おまの…おま…はあ…安らかに私達に身を委ねてやる…とかまつ、おまの…おまの…
れぬ…ふる…

ふる。ねつじつした口吸い、眞持のこどしゆのー…おま…おまの…おまの…おまの…おま
の…力が抜けてしまひー。」

みじの「じやああたしよ、お兄わざはお姉様の術を試せよかひの。勿縕のねかよかひ
こよがいへ…せー、おねいさんやくじよせせ。迷ひわざなじものよかよかよかよかよかよかよ
か…おねいさん…おねいさん…おねいさん…おねいさん…おねいさん…おねいさん…」

おひのやか「ハース」の未熟おちんぽだいから反応しふたわだじ、村に帰つたりやつらし特訓し
めふみやね

おひは私に任せなれど。」の呪で思に切り踏みつけて、甘め玉ねじでめざるせ。…あ、お兄さん。

眞面目なこゝかしり

ほー、ハハ…… みじつの手扱きでやつ返せぬよくなつひやつ未熟おちんぽが、私の呪でぐつぐつ
わねたら堪らなじでしゃべ。

じこのよ。せしたなく豊てうじやうむか。」んな道の真ん中で、女に體みづけられながら悲鳴をあ
げいや」

みじつの「つわぬ、あんなに股間をぐづぐづされたり痛がつたの」、お兄ちゃんはあひて返持
ね返せぬといつてや。

流石むじわらね姉ちゃん。」の足扱きの術なりの處の任務も大成功だね」「

あねこ「ちまひ……れい……つかま、かまつひ……はあ……」じりじりしたんですか?『返持の限界をいた困つた
んですか?

あらあら、それは大変じよ。かまつ……かまつ……かまつ……なん、お口やおかんかんさんも湯けち
やつたんですね」

むじわら「でも残念。私達はくらべ行かないからや。…あいつ。みんな名残惜しきの顔しても
無駄よ

私達にいかせて貰いたいなら、標的にになつて貰わないと。ね?」

あねこ「やつてはせつね兄さんの事じのひがつて、もしよろしくしてあげたかつたんどうが…
時間が来てしまつたのなり仕方があつまらせたな、ハハ…」

みじつの「あたしもお手々の術で誰かを虜にしたかつたんだけじよ。村で特訓か…お姉ちゃん、今
度の任務につづいてつかや豊田~」

むじわら「だーね。さ、一人しかも、ルルルルル!」とくわよ。…お兄さん。また会ふたび、次の時はたつ
ぱつねかせとおひづねわね。」ひるつ